

このあいだ、いなり山七ふしぎをとりあげたのですがかききれなかったのでつづぎのはなしをします。

つるぎ石。べつのいいかたでかみなり石ともいいます。とがっているのでそういういう名まえがつきました。そもそもおおむかしの人は石や岩や大きな木をかみさまがやどるところとしておがんでいました。きみがよのさざれ石もはたしという人たちがおがんでいたものです。まつおたいしやもうら山に岩があつて、たてものがたてられるまでははたしはその岩をおがんでいたのです。ふしみにすんでいたはたしもきつといなり山の石をおがんでいたのです。それがじんじやになつたということです。

つぎはむねちかのいどです。むかし「さんじようこかじむねちか」という刀づくりの名人がいました。この人が名刀「こぎつねまる」をつくろうとしたとき、このいどから水をくんだといういつたえがあるのです。さらに、いなり山からこぎつねがやってきて刀づくりを手つだつたということ。なんかおもいうかべるとたのしいですね。

しんいけ。おくしやからみつじにいくとちゆうにある小さいいけのことです。どこにいつたのかわからない人々がすとき、このいけにむかつていのりをこめて手をたたくのだそうです。いけからこだまがかえってくるのですが、そのほうこうをさがせば、手がかりがみつかるといわれています。いつからのいつたえかわかりませんが、このいけのことをこだまいけとよぶ人もいます。

まだまだふしぎがあるのですが、それはまたこんど。

おんどくサイン↓

① なんのはなしでしょう？

() ② このプリントでとり上げた七ふしぎはいくつですか？ のつづき

() ③ おおむかしの人がおがんでいたものを三つかきぬきましょう？

() ④ ふしみのはたしがはじめにおがんでいたものはなんですか？

() ⑤ はたしがまつおではじめにおがんでいたものは？

() ⑥ こぎつねまるとはなんの名まえですか？

() ⑦ さんじようこかじむねちかのしごとは？ づくり

() ⑧ しんいけの別名はなんですか？

() ⑨ あっているものに○をつけましょう。

() () きみがよのさざれ石はおがまれていた。

() () いなり山七ふしぎはさいきんはじまつた。

() () むねちかのしごをこだぬきがてつだつた。

() ⑩ おもつたことを五行でまとめましょう。

できばえは？



このあいだ、稲荷山七不思議をとりあげたのですがかききれなかったのでつづきの話をします。

劍石。別名雷石ともいいます。御劍社というお社のご神体です。とがっているので劍石という名前がつきました。そもそも古代人は石や岩や大木を神さまがやどるところとしておがんでいました。君が代のさざれ石も秦氏のいわくら(神さまがやどる石)、船岡山にある平安京の玄武(北の守り神)も大きな岩です。左京区の岩倉という地名もともとおがむべき岩があったので地名になったのです。松尾大社もうら山に岩があつて、たてものがたてられるまでは秦氏はその岩をおがんでいたのです。この地にすんでいた秦氏もきつと稲荷山の石をおがんでいたのですよね。それが今にいたるわけです。

次は宗近の井戸です。京の都にむかし三条小鍛冶宗近という刀づくりの名人がいました。この人が名刀「小狐丸」を作ろうとしたとき、ここの井戸から水をくんだという言い伝えがあるのです。さらに、稲荷山から子ぎつねがやってきて刀づくりを手伝ったということです。なんか想像すると楽しいですね。

新池。奥社奉拝所から三ツ辻に行く途中にある小さな池のことです。行方不明になった人をさがすとき、この池に向かつて祈りをこめて手をうつのだそうです。池からこだまがかえってくるのですが、その方向をさがせば、手がかりが見つかると言われています。いつからのいい伝えかわかりませんが、この池のことをこだま池とよぶ人もいます。うです。

まだまだふしぎがあるのですが、それは次号で。

音読サイン↓

① 何のはなしでしょう？

② このプリントでとり上げた七不思議はいくつですか？

③ 古代人がおがんでいたものを三つかきぬきましよう？

④ いわくらとは何がやどる石と考えられたのですか？

⑤ 秦氏が松尾ではじめにおがんでいたものは？

⑥ 小狐丸とは何の名前ですか？

⑦ 宗近のしごとはなんですか？

⑧ 新池の別名はなんですか？

⑨ あっているものに○をつけましょう。

() 君が代のさざれ石はおがまれていた。

() 稲荷山七不思議は平成にはじまった。

() 船岡山には平安京の朱雀がまつられている。

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

できばえは？



このあいだ、稲荷山七不思議をとりあげたのですが書ききれなかったので続きの話をします。

剣石。別名雷石ともいいます。御剣社というお社のご神体です。とがっているので剣石という名前がつきました。そもそも古代人は石や岩や大木を神様が宿るところとしておがんでいました。君が代のさざれ石も秦氏のいわくら(神様が宿る石)、船岡山にある平安京の玄武(北の守り神)も大きな岩です。左京区の岩倉という地名ももとおがむべき岩があったので地名になったのです。松尾大社もうら山に岩があつて、建物がたてられるまでは秦氏はその岩をおがんでいたのです。この地に住んでいた秦氏もきつと稲荷山の石をおがんでいたのでしょうね。それが今にいたるわけです。

次は宗近の井戸です。京の都にむかし三条小鍛冶宗近という刀づくりの名人がいました。この人が名刀「小狐丸」を作ろうとしたとき、ここの井戸から水をくんだという言い伝えがあるのです。さらに、稲荷山から子ぎつねがやってきて刀づくりを手伝ったということです。なんか想像すると楽しいですね。

新池。奥社奉拝所から三ツ辻に行く途中にある小さな池のことです。行方不明になった人を探す場合、この池に向かって祈りをこめて手をうつのだそうです。池からこだまが返ってくるのですが、その方向を探せば、手がかりが見つかると言われています。いつからの言い伝えかわかりませんが、この池のことをこだま池とよぶ人もいるそうです。

まだまだ不思議があるのですが、それは次号で。

音読サイン↓

① 何の話でしょう？

② このプリントで取り上げた七不思議はいくつですか？

③ 古代人がおがんでいたものを三つかきぬきましよう？

④ いわくらは何が宿る石と考えられたのですか？

⑤ 秦氏が松尾ではじめにおがんでいたものは？

⑥ 小狐丸とは何の名前ですか？

⑦ 宗近の職業はなんですか？

⑧ 新池の別名はなんですか？

⑨ あっているものに○をつけましょう。

() 君が代のさざれ石はおがまれていた。

() 稲荷山七不思議は平成にはじまった。

() 船岡山には平安京の朱雀がまつられている。

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

できばえは？

